

之を以て當時の站戸の負擔の全部と見る可からざるや明らかかなりといふへし、而して各站到米倉を備ふべきことも規定せらるれと、これも治ねく驛舎を通してのことにはあらざるべく、たと和林附近のものに止とまりしなるへし、漢車の供給、米穀の蓄積の如きは、未だ當時の蒙古を通して實施し得べきに非ざるのみならず、實に此後十數年にして蒙古を旅行せる有名なるカルピニ Carpini、ルブルキー等の語れる所によるも、驛舎の設備は極めて簡單にして、只た僅かに馬匹の供給を爲すに止とまりしか如し、數日一片の食なくして馬を走らせしを記するを見るも、其不備の有様を想像するを得べきにあらずや、元史記するか如き完全なる設備に至りては遙かに後代のことと屬せざる可からず、然かも、秘史によれば此等驛傳に關する法令は極めて嚴重にして『我等より限りたる限りより短かき繩(なりとも)缺かさは、項によりて切り(項を切り)罪あるとなさん、匙ほと(なりとも)輻(なりとも)缺かさは、鼻を切り罪あるとなさんと勅ありき』(成吉思汗實錄六百六十頁)と記せり、草創の際此の如き嚴重の制をも要せしなるへし。秘史には先きに見たるか如く處々の千戸に命して札木臣、兀刺阿臣等を出たさしめしことをいへり、札木臣は驛務を司とるものにして兀刺阿臣は『典車馬者曰兀刺赤』(兵志二)といふものなり、此等兩者の一は即ち元史の所謂百戸に相當するか如しと雖、實は然らずして後に世祖の時に明らかに記するか如く、兩者の外に別に百戸の官人一人をして站の行政に任せしめしか如し、而して兀刺阿臣の數は頗ふる多く站毎に二十人を置きたと秘史には規定せり、されと之にもまた果たして實施せられしや否や、當時の旅行家の記する處に従かへはしかく多くの數にはあらさりしか如し。

此の如き驛舎か如何なる距離を以て配置せられしやに就いては、當代の史料の徵すべきものなきに苦しむと雖、少なくとも馬行一日程に於て一舎或は一舎以上の驛の存したるは疑ふへからず、試ろみに邊堠紀行に就いて張德輝